



社会福祉法人 大分県福祉会 大分市頭徳町 1-13-17 発行者 有松一郎 532-3472

働きやすい職場を目指して

研修と改革に取り組みを加速

大分県福祉会では、『ご利用者みなさまの最善の幸せを求めて』という使命の具現化に取組

は福祉人材としての育成をどのようにしていくかということ

六月には、良質な人材確保に向けた視点で、大分県福祉会のホームページのリニューアルを

いた。今後人手不足が更に大きな課題となる中、これからは法人の経営理念を基に福祉の仕事の魅力や働きやすい職場で

ある。六月には、良質な人材確保に向けた視点で、大分県福祉会のホームページのリニューアルを



新任研修に取り組む職員

あることをアピールするような発信をしていきたい。就職先としてまず選んでもらうためには、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境づくりを推進している。

今年度、多様な職種、勤務形態、年代から構成した各施設の代表からなる「働き方改革検討委員会」を設置した。労働関係法令の周知と遵守の徹底を図り、業務の見直しを検討課題とし、年次有給休暇の取得率向上、時間外労働の削減に取り組んだ。円滑で良好なコミュニケーションをとりながら業務を進め

る組織風土作りは、人材の定着には欠かせない。法人の求める職員像としても必要な部分となる。研修委員会では、福祉人材の育成についてこれまで取組んできたことを更に充実させることを目的に検討を進めてきた。今年度は、ハラスメント研修や新採用者と中堅職員を中心に、人権や組織での役割についての研修を行い、グループワークを通して、大分県福祉会の職員としてこれから貢献して欲しいという期待が持てた。今後も専門性、組織性、社会性、倫理性のバランスに考慮して研修を行ってきたい。

更には、職員が自らの将来の姿を描くことができるようなキャリアアップ制度の充実を通して、自己実現を支援する職場であること目指していく。さらにも、職員がはつらつと働けるような様々な改革に取り組んでいきたい。

平成三十年十月十八日(木)、別府市ビーコンプラザにおいて開催された第十三回大分県地域福祉推進大会で、別府厚生館館長安東一夫氏が社会福祉施設従事者として長年にわたり社会福祉向上に尽力したことで大分県知事表彰を受けた。「大変光栄なことです。うれしく思います。これを励みながら努力してまいります」と喜びの気持ちを語った。



県知事表彰

表彰

栄えある受賞おめでとうございます

全国社会福祉協議会 会長表彰

平成三十年十一月二十二日

(木)、東京都のメルパルクホール東京で開催された全国社会福祉大会の席上、福祉施設功労者に対する表彰の部で、うえの園・清明あけぼの学園園長関谷眞佐子氏が、永年勤続功労表彰の部で明野しいのみ保育園園長阿南奈緒美氏が、全国社会福祉協議会会長表彰を受賞した。関谷園長から、「この度の受賞は、出会った方々の支えによるものと感謝しています。今後も誠実な仕事につとめてまいります」阿南園長からは、「この度、全国社



福祉サービス運営委員会

平成三十年第一回福祉サービス運営委員会が平成三十年十一月十三日(火)本部会議室において開催された。今年度は委員の改選の年で第三者委員、利用者家族委員に委任状を交付の後、仲元研二氏が委員長に選任された。仲元委員長は挨拶に続き事務局及び各施設の重点的取組や現状、苦情、怪我や事故への対応についての報告があり協議を行った。

理事会・評議員会

○平成三十年九月二十六日(水)理事会を開催した。就業規則、再雇用者就業規則、キャリアアップ制度、職員の採用に関する規則の改正、うえの園人件費積立資産、移行時積立資産、施設・設備整備積立資産取崩、滝尾保育園人件費積立資産、器具及び備品等積立資産取崩、森の木公用車購入、平成三十年度第一次補正予算について審議し承認された。

○平成三十年十月三十日(火)臨時理事会を開催した。明野しいのみ保育園改築について審議し承認された。○平成三十年十二月十九日(水)理事会を開催した。別府厚生館施設整備等積立資産、うえの園施設・設備整備積立資産、滝尾保育園人件費積立資産の取崩、平成三十年度第二次補正予算について審議し承認された。

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。皆様には、平成三十一年の新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

振り返りますと昨年は、相次いで発生した自然災害やあおり運転等、人の心の貧しさに起因する悲しい事件などもありましたが、緩やかに続く景気回復をベースとして、比較的安定した国内情勢で推移した一年でした。その一方で国際的には、米中経済摩擦やイギリスを含むEUの不安定化、さらには北朝鮮の核問題を含む東アジアにおける様々な葛藤等、先行き不透明な事案も顕在化し、今後国内外



新たな中長期ビジョンの策定に向けて

社会福祉法人大分県福祉会

理事長 有松 一郎

への様々な影響が心配されております。大分県福祉会におきましては、福祉サービスの充実に向けしっかりと歩を刻むことができた一年であったと感じております。これもひとえに、利用者及びご家族関係者の皆様のご理解とご協力、またご支援を賜りましたボランティアや地域の皆さま方、さらには関係ご当局よりのご指導、そしてな

出る課題と認識しております。これまで取り組んできた処遇改善やキャリアアップ制度の充実、ワークライフバランスの実現に向けた環境整備等のさらなる充実を目指すとともに、IoTやICTを活用した効率化や生産性の向上といった技術革新にも取り組むことにより、この難局を乗り越える力を蓄えたいと考えております。さらに、今後ますます

新たなチャレンジや、将来的に予想されるニーズに迎えるための新事業等を含んだ新たな中長期ビジョンを策定いたします。そして利用者様の皆様や勤務先の方々との関係性を深め、本会に期待と信頼をお寄せいただくすべての皆様、夢溢れる大分県福祉会の将来像をお示しすることをお約束し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成三十年九月二十六日(水)理事会を開催した。就業規則、再雇用者就業規則、キャリアアップ制度、職員の採用に関する規則の改正、うえの園人件費積立資産、移行時積立資産、施設・設備整備積立資産取崩、滝尾保育園人件費積立資産、器具及び備品等積立資産取崩、森の木公用車購入、平成三十年度第一次補正予算について審議し承認された。

平成三十年第一回福祉サービス運営委員会が平成三十年十一月十三日(火)本部会議室において開催された。今年度は委員の改選の年で第三者委員、利用者家族委員に委任状を交付の後、仲元研二氏が委員長に選任された。仲元委員長は挨拶に続き事務局及び各施設の重点的取組や現状、苦情、怪我や事故への対応についての報告があり協議を行った。

たくさん食べて遊んだ きんもくせい 家族旅行

平成三十年十一月二十五日(日)〜二十六日(月)に地域小規模「きんもくせい」の児童・職員が家族旅行に出かけた。地域小規模の男子児童が生活する「さくら」女子児童が生活する「きんもくせい」では毎年一泊二日の旅行に出かけている。

今年度、きんもくせい家族旅行では杉乃井ホテルに宿泊し、翌日は城島高原パークの遊園地で楽しい時間を過ごした。こどもたちは年に一度の旅行を心待ちにして、非日常的なイベントを通じて、充実した時間を共有すること、家で



空中ブランコで大はしゃぎ

族としての結束をより一層高めることができている。なお、さくらについては三月に実施予定となっている。

児童家庭支援センター「ゆずり」では、毎月二回日曜日に就学前から小学校低学年の児童十人ほどを対象に、「ゆずりは子育てサロン」を開催している。

毎回、テーマを変えて、料理教室、工作活動、ハイキング、デイキャンプ、大分駅への買い物訓練など楽しいひとときを過ごすことができている。

開放され、レスパイトの時間ともなっている。参加する子どもたちは集団活動を通じて、他の友だちとの関わり方やコミュニケーション

ケージの取り方など参加するたびに大きく成長してきている。保護者も子どもたちの成長を喜び、ゆずりはとの関係性も向上し、相談活動を進める上で大きなプラスとなっている。今後とも子どもたちの成長を楽しみに、創意工夫したサロンを展開していきたい。

家族みんなで楽しい忘年会 ～別府厚生館～

平成三十年十二月一日(土)別府芙蓉クラブで忘年会を行った。別府厚生館の忘年会は宿泊しながら食事を楽しまり日頃の疲れを癒すことを目的に実施している。旅行気分が味わえると利用児者が最も楽しみにしている。行事のひとつである。食事が始まると自分の好きなものが食べられるバイキング形式の食事に子どもは喜び、日頃食べない料理には「これはなんの食べ物なの」と不思議そうに尋ねる光景もあった。食事が一段落し、恒例のビンゴ大会に移るとお母さん達は景品をゲットするために気合を入れて臨んでいた。食事が終了後は各家庭が三々五々部屋に引き上げ、普段とは違うホテルの部屋で年末の楽しい一夜を過ごした。



ビンゴ大会何が当たるかな?

「開園50周年記念 ふれあい参観日」 ～滝尾保育園～

滝尾保育園は、平成三十年十一月一日(木)に、開園五十周年を迎えた。この日からの一年間を「五十周年祭」として、様々な行事を通して祝ってみたいと思う。まず、一日の朝、正面玄関の壁面に五メートル四方の大きな「たきおほいくえん おたんじょうびおめでとう」の横断幕が飾られた。滝尾保育園の子ども達全員の手型で描かれた大きな虹と、大きなバースデー

調理実習 清明あけぼの学園

清明あけぼの学園では、今年度より一年間を通しての調理実習を始めた。入所している児童は、朝夕は園で、昼は学校で給食を食べているので、自分で食材を選んだり、調理したりという機会がほぼない状態である。調理実習を通じて、退所後の日々の食生活に役立てば良いと考えている。調理実習では、児童と職員と一緒に材料を買いに行くところから行っている。今回で、調理実習に取り組み始めて五回目になる。フレンドリーな作りでは、包丁を使いパンを切ったり、卵の殻が入らないように割ったりと、積極的に調理実習に取り組む姿が見られた。自分で焼いたフレンチトーストを美味しく食べていて、とても良い経験になったのではないかと思う。食事を作る楽しさや、どういった食材を使っているか等を知ってもらい、料理をすることを好きになってもらえるように取り組



おいしく作れるかな?

ケーキ。朝からお祝いムードが流れた。登園してきた子ども達はもちろん、保護者や地域の方々まで立ち止まり、見上げてくれ、私たち職員を見かけると「おめでとうございませう」と声を掛けてくださる方もいた。そして、十一月十七日に「親子ふれあい参観日」を開催した。オープニングセレモニーでは滝尾中学校の吹奏楽部のみなさんが、総勢六十名で素敵な演奏を聞かせてくれた。子ども達が大好きな曲もたくさんあり、とても華やかなオープニングになった。ホールでは、滝尾保育園が大切にしている絵本を保護者の方々に、もっと知ってもらえるよう、年齢別に展示を行い、手にとって見てもらえるようにした。親子で読み聞かせをする姿も見られ、とてもほほえましかった。また「滝尾保育園五十年のあゆみ」横断幕 みんな釘付け!



絵本を再現! 手作りのお弁当箱

として、開園当時から現在までをスライドにして上映した。五十年の歴史に感動したと言う声が多く聞かれた。そして、園舎では、滝尾保育園が三年前から取り組んでいる、「子どもの主体性を育てる保育」の一環として絵本をテーマに「絵本ミュージアム」を展開し、クラス別に絵本の世界を作り上げた。職員の工夫に、子ども達の発想も加わり素晴らしいものが出来上がった。また、親子で参加できるワークショップや、保護者を対象に手作りのお弁当箱に入った給食試食会も行われた。子ども達の笑顔、保護者の優しい眼差しがあふれる、素敵なふれあい参観日になった。三月十六日(土)に記念式典を予定している。これからの「五十周年祭」も、滝尾保育園に関わる全ての方々笑顔で作っていききたい。

どっさり掘れたよ! 明野しいのみ保育園

平成三十年十一月二日(金)に、今年是由布市挾間町に場所を移して、年長児と年中児の五十二名で恒例の芋掘りを楽しんだ。六月に苗植えを行ってから苗の生長の仕方を知り、期待に胸を膨らませていた。到着すると、芋畑を管理している三浦さんより芋の掘り方を丁寧に教えて頂いた。子ども達は早速両手やスコップを使って一生懸命に掘り始めた。紫の芋が顔を覗かせると、「できてる、できてる!」

と目を輝かせた。一人で抜けないう時には友達と力を合わせて蔓を引っ張るとよく太った大きな芋が出てきた。「顔より大きい!」「こんなに長い!」と、とびつきの笑顔で喜び、次々に掘っていた。沢山掘れた芋は家庭にも持ち帰り、「焼き芋にした」「シチューに入れた」等、様々な料理で味わったようだ。園では調理員に教えてもらいながら

みんなでたくさん掘ったよ!

スイートポテト作りを行い、「私達が掘ったお芋!」と喜び、材料を混ぜたりカップに入れたりして焼き上がりを楽しみに待った。自分で掘った芋、自分で作ったお菓子はより一層美味しく、「とっても甘い!」「何個でも食べられそう」とすぐに食べ終えていた。降園時には、「お家で一緒に作ろう」と保護者に嬉しそうに話をする姿が多く見られた。

十二月十三日(木)に、うえの園のクリスマスレクを行った。今年はおさだタウンのミスタードーナツに、クリスマスドーナツを食べに行った。事前にメニュー表から選んでいたのに「私はふゆだるまのドーナツにしました」「俺はチョコのやつにしたぞ」等、ドーナツの話で盛り上がっていた。当日はお天気も良く、皆さんの体調も万全で出発した。店では、自分のドーナツが来るのを楽しみに待っていた。全員で出掛けることとは少ないので、ドーナツを食べながら面白い話をし、楽しんで

帰りの車内では「楽しかったなあ」「ツリーがあったぞ」と皆さん笑顔で話した。また来年も全員で出掛けることができるように、二気に過ごして欲しいと願う。

無事に「福祉会報第七十九号」をお届けすることができました。ご協力ありがとうございました。【編集責任者】安東 一夫(別府厚生館)【編集委員】大石 彩加(清明あけぼの学園) 出田 千晴(森の木) 葉真寺 琴美(森の木) 波多野 加奈子(滝尾保育園) 佐藤 朱美(明野しいのみ保育園) 甲斐 遼太郎(別府厚生館)【顧問】釘宮 和代(事務局長)

編集後記

